

かずさの博物誌

トラツグミ

～日本最大のツグミ～

文・写真／成田篤彦

2016.1.20



▲トラツグミが現れる草原 2015年3月19日 木更津市

昨年の二月、雑木林そばの平坦な草地で、チョココ、チョココとうごめく小鳥がいた。
大きさは形はツグミに似ていた。しかし、背が低く、形が丸っこく、もこもこしている。
「なんだらう？」と双眼鏡でのぞくと全身が黄色で黒の三日月形の斑紋がある。ツグミより少し大きい。「あ！トラツグミ」
今年もやってきたか？と嬉しくなった。
それにしてもこのツグミが草原に出てくることは珍しい。
トラツグミは数歩、歩いては止まり私を見ている。それを繰り返して、遠くへ歩き去っていった。
トラツグミは一昨年の二月、市街地の公園にもやってきた。しかし、三日間滞在し、去っていった。恐らく移動の途中だったのであろう。
ちなみに、源頼政が紫宸殿の屋根にいたヌエ（鶴）を退治した。それは顔がサル、手足がトラで体はタヌキ、尾はヘビという怪物であった。



▲木に止まるトラツグミ 2014年2月1日 木更津市

た。トラツグミの別名はヌエである。
さて、文頭の地域では、ここ数年、トラツグミを冬に毎年のように見るようになった。
実は、一九八〇年代、この地では五～六月の夕方や曇り空の時、「ヒーヒー」という細い口笛のような鳴き声が鬱蒼とした森から聞こえてきた。物悲しく、気味が悪い鳴き声で、一人で森にいるときは逃げたい気分なる。これが、トラツグミの鳴き声である。
次の句は、はじめてトラツグミの声を聞いたときの気持ちをよく詠っていると思う
「鶴の笛闇に魔王が居ることし 高橋克郎」



▲トラツグミ 千葉県指定最重要保護生物 2014年2月21日 木更津市



▲公園に飛来したトラツグミ 2014年2月21日 木更津市

また、近くのお寺の、苔むした階段をトントンと上るトラツグミを何度か見た。
ここにはトラツグミがすみ着くいい森があった。当時はこの場所、繁殖していたに違いない。
ところが、館山道の建設後、トラツグミの鳴き声も姿も消した。
しかし、ここ数年、寒くなるとトラツグミを見かけるようになった。
また、いい森が再生され、トラツグミの繁殖時の鳴き声を聞かれるようになると思っっている。
いずれにせよ、トラツグミは大型で、虎の模様、細い口笛のような物悲しい鳴き声、すみ場所は暗い林の中という風変わりな鳥である。

memo

トラツグミ

ススメ目 ツグミ科

全長約三十センチ。日本最大のツグミ。奄美大島以北に生息。全国の低山帯や高山帯の森林で繁殖。林の中で、ミミズなどの小動物や赤い実を食べる。木の股に皿状の巣をかける。千葉県では南房総の丘陵地で少数繁殖している。冬季には県内各地で見られる。